



▲昭和20年頃の龍野橋付近から見た揖保川右岸



▲畳堤施工当時の新龍野橋付近での法覆い前の石積み作業



▲現在の龍野橋付近から見た揖保川右岸



▲現在の新龍野橋付近から見た揖保川右岸

洪水等に関する防災情報体系の概要



< 気象情報や河川情報をチェック >

気象・河川情報に注意!

- テレビやラジオによる最新の気象情報をよくチェックしてください。
- 「1時間に50mm以上の非常に激しい雨」「記録的短時間大雨情報」「過去数年間で最も土砂災害が発生する危険」という発表があったときは、特に気をつけてください。
- パソコンやスマートフォンでも最新の災害情報を見ることが出来ます。

川の防災
情報サイト



パソコン・スマートフォンから

<https://www.kkr.mlit.go.jp/himeji/>

2次元コード



■ 洪水予報と避難行動

大雨により河川の水位が上昇すると、水位の高さにより避難に関する情報が発表されます。それぞれの情報に注意して、すばやい行動を心がけましょう。

水位の状態イメージ	レベル	水位	発表情報	市民に求められる行動
	5	氾濫発生	氾濫発生情報	命の危険 直ちに 安全確保
	4 危険			警戒レベル4までに必ず避難
	3 警戒	氾濫危険水位	氾濫発生情報	危険な場所から 全員退避
	2 注意	避難判断水位	氾濫発生情報	危険な場所から 高齢者等は退避
	1	氾濫注意水位	氾濫発生情報	自らの避難行動を確認
	通常の水 位	水防団待機水位		災害への心構えを高める

※河川の規模によって異なります。詳細は、お近くの河川事務所や府県の河川担当課などにお問い合わせください。

水害から町を守る

揖保川の特殊堤防

たたみ

てい

い



国土交通省 近畿地方整備局 姫路河川国道事務所

〒670-0947 姫路市北条1-250 TEL.079-282-8211(代)

URL <https://www.kkr.mlit.go.jp/himeji/index.html>

龍野出張所

〒679-4167 龍野町富永1005-47 TEL.0791-62-0262

余部出張所

〒671-1228 姫路市網干区坂出155-15 TEL.079-274-1707

令和7年3月改訂

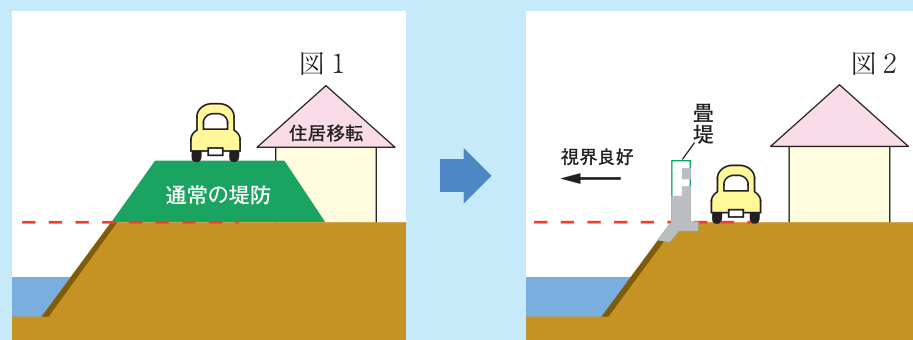
畳堤とは…

兵庫県西部を流れる日本有数の暴れ川として有名な揖保川の緊急時の防災対策として、約60年以上も前に考えられた特殊な堤防です。普通の土石・コンクリートなどのできた堤防とは違い、一見、橋の欄干のように見えるフレームが並び、川の景観を損ねません。住民の意見が反映された環境への配慮と、住民の防災自治の意識の高さが実を結んだ堤防といえます。



なぜ普通の堤防と違うのか？

底幅が広い台形型に土を盛ったのが一般的な堤防の形です(図1)。畳堤が造られた地域は川から住宅までの距離が大変短く、土手が造れないのでコンクリート壁を堤防の上に造りました。このような堤防を特殊堤といいます。特殊堤の場合通常は、コンクリート壁になるところを揖保川では、畳を差し込む枠だけの欄干のような堤防です。地域の自治意識は高く、万一の際は住民の手で畳を持ち寄り、堤として機能させます(図2)。



※赤色の破線は洪水の危険ラインであるハイウォーターレベルを示しています



兵庫県宍粟市山崎町 旧神河橋付近

暴れ川 揖保川

揖保川は、古くから災害の記録が多く、特に梅雨の時期や台風の季節には頻繁に大水害が発生していました。中でも、昭和20年の7月から10月にかけては何度も堤防が決壊し、濁流が民家や田畑を飲み込む被害が続出。これらの被害により、水害防止の堤防への声が高まり、堤防が設置されることになったのです。

もし畳堤がコンクリートを立ち上げただけの堤防だったら…？



揖保川の美しい景観は損なわれ、暗く圧迫感を感じる堤防になっていたことがシミュレーション写真を見るとよく分かります



畳堤になったいきさつ

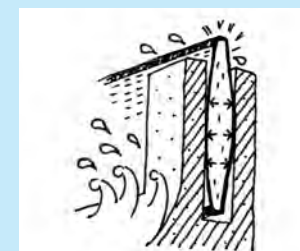
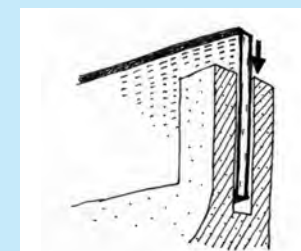
昭和22年(1947)、龍野市龍野町長末広氏より特殊堤(パラベット)設置の提案が出されました。当時、姫路工事事務所長だった玉井正彰氏、工事主任の藤原玉造氏らが長良川の畳堤を見学するなどして、特殊堤にすることになりました。当初は壁のような特殊堤でしたが「ふだんは揖保川が眺められるように枠だけにしてほしい。防災はみんなで行うもの、洪水の時は自分たちも畳を入れて協力する」という周辺住民らのたつての要望により、現在の畳堤となりました。



こんなにある畳堤の特徴

- ・地域住民と一体となった防災活動が基本
- ・畳はどこ家庭にもあるため、すぐ用意できる※)
- ・畳は水分を含むと膨張し、強度を増す
- ・土のうを積むより手軽
- ・平常時は景観が楽しめる

※) 建設当時、畳は本間サイズだが、現在の畳は小さい団地サイズが主流なため畳の手配が困難になっている。たつの市水防倉庫には、本間サイズを保管している。



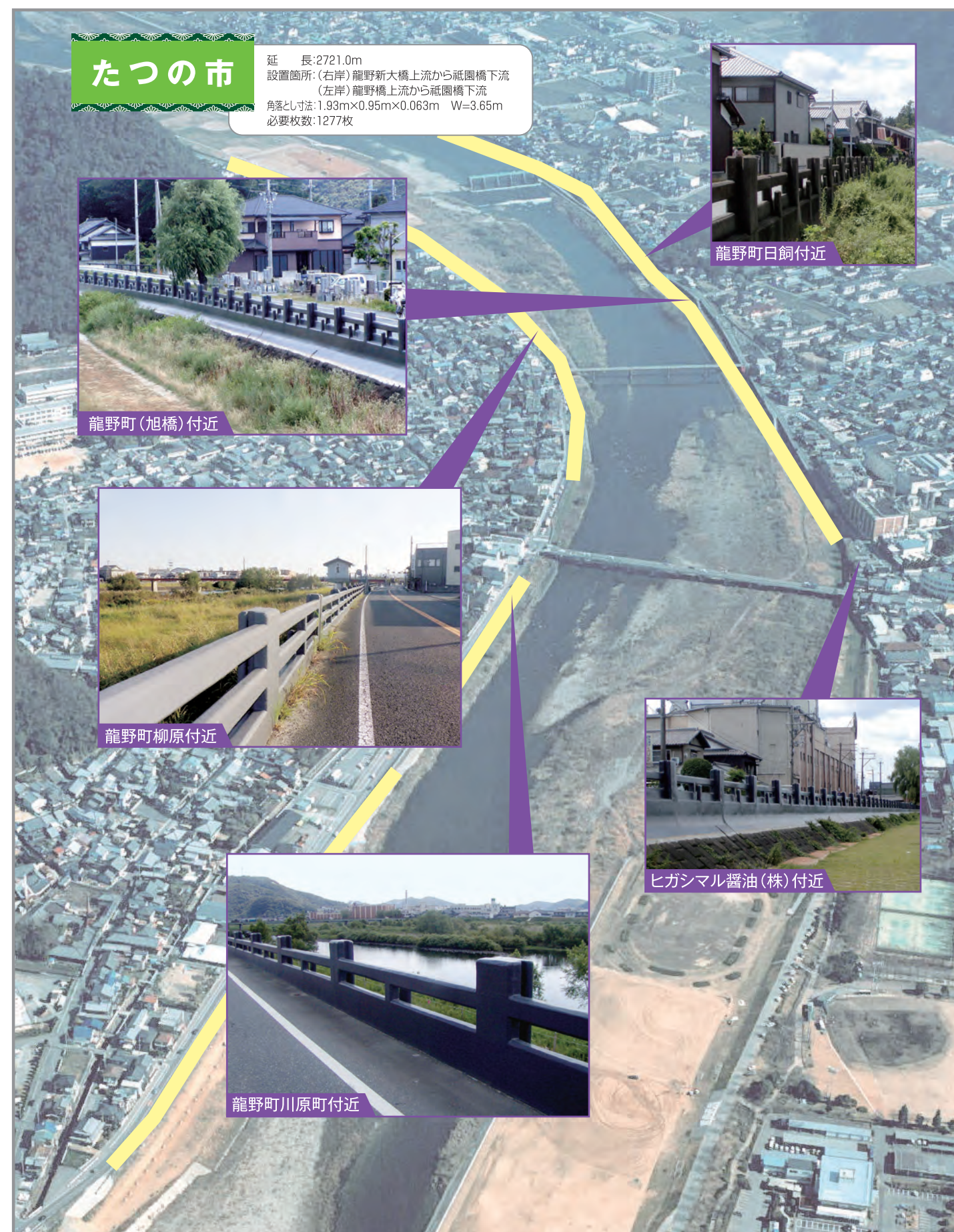
流域マップ、河川概要

兵庫県の西部に位置する揖保川は、兵庫県宍粟市一宮町の藤無山に源を発し、途中引原川、栗栖川、林田川等を合わせながら宍粟市、たつの市等を貫流し河口付近で中川を分派して瀬戸内海播磨灘に注ぐ幹川流路延長約70kmの河川。流域は3市2町にまたがっており、その面積は約810km²です。



河川概要	
流域面積	810km ² (山地660km ² 、平地150km ²)
流路延長	幹川70km
計画高水流量	基準地点：龍野 基準高水流量：3900km ³ /s 計画高水流量：3300km ³ /s
管理区間	姫路河川国道事務所 揖保川146.92km その他支川119.76km 合計266.68km
水源	兵庫県宍粟市一宮町藤無山
流域市町	宍粟市・神河町・たつの市・太子町・姫路市

揖保川の畳堤のある箇所



畳堤の現在

水害時には自分たちで畳を入れるという労力をかけてでも「安心と安全は自分たちで作るもの」「ふるさとの川を見て暮らしたい」そんな思いで作られたのが畳堤です。万一の水害に備えるために、沿川の住民が主体となって実地訓練が行われています。これまで、豪雨の際にも、畳を堤防にはめこんだことはありませんでしたが、平成30年7月の豪雨の際に、住民が協力し初めて畳を堤防にはめこみました。令和4年度には畳堤が土木学会の選奨土木遺産に指定されました。



畳堤を使った水防訓練の様子

選奨土木遺産の認定と看板の設置

揖保川の畳堤は、眺望への配慮など住民の意見が反映された特殊堤で、住民の防災意識の高さが結実した貴重な現役の土木遺産であることを理由に、令和4年度土木学会選奨土木遺産*に認定されました。認定をきっかけに、畳堤について紹介する看板をたつの市の観光駐車場に設置しました。

※選奨土木遺産とは、歴史的土木構造物の保存に資することを目的として、年に1回、その功績を表彰するものです。



設置した畳堤の紹介看板



選奨土木遺産の銘板・認定書

軽量畳パネルの活用

揖保川畳堤の歴史と文化を継承していくことで、住民一人ひとりが災害を自分事と考えるきっかけとなることを期待し、通常の畳の重さの1/3ほどの軽量の畳パネル（ポリカーボネート製）を、令和2年度にたつの市へ贈呈、常設を行いました。



広報用畳パネルの贈呈式



畳パネルの設置状況

美しく生まれ変わる畳堤

竣工から50年余が経過し、長年の風雨により表面劣化やひびわれ、剥離、それに伴う鉄筋腐食が多く見られるようになってきたため、補修工事が着々と進められています



1.崩れて畳を挿入できない箇所や鉄筋が露出している危険な箇所をチェック



2.表面の汚れを除去



3.モルタルやパテ材を塗って、表面の凹凸を滑らかに



4.コンクリート劣化防止に炭素繊維シートを貼る



5.仕上げに耐久性を高める塗装をして工事完了

全国にある畳堤



岐阜市忠節橋から長良川上流1000m余に設置されています。和15年頃完成
岐阜県



たつの市内の3箇所を設置されています。総延長は3100m余
兵庫県 たつの市正條



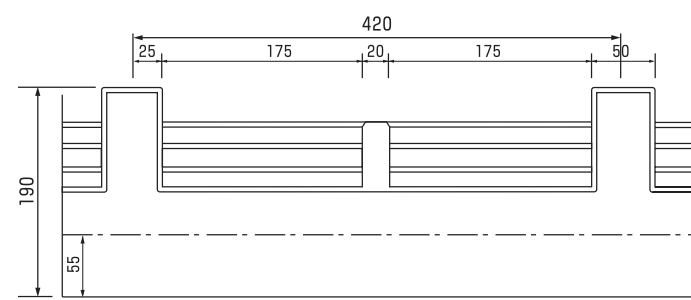
昭和初期に造られた日本で一番古い畳堤。延岡市五瀬川の900mの区域に設置されています
宮崎県

畳堤の構造

たつの市 右岸



正面図



側面図

